

編集後記

今年の最終号、12月号をお届けします。

平成13年は米国で多発同時テロ事件が発生し、社会が大きく揺れ動いていますが、何とか早く事件が解決し平和な社会にしたいと思います。小生の所属する大学では、しばらく海外出張は自粛するようにと通達がありましたので、今年はシカゴの北米放射線学会は出席を見合わせました。皆様はどうされたでしょうか。

10月の記念すべき第30回断層映像研究会の大会は、岡山大学の平木祥夫教授が会長で、岡山市において開催されました。9月号に有りますように、充実した盛り沢山の内容でした。平木会長をはじめとする岡山大学放射線科教室の方々のご努力に心から感謝を致します。そして一つの研究会が30回も継続するという事は、大変お目出度いことではないかと、痛感しております。

また演題を発表された方々には、是非論文にまとめて投稿を御願ひする次第です。

さて、今月の12号は、ゲスト・エディターに岐阜大学の星博昭教授を御願ひしました。会員の皆様に喜んで頂ける内容であると確信しております。他に原稿を3編掲載しております。

平成14年は、ゲスト・エディターとして、3月号は福島医大の宍戸文男教授、6月号は東京慈恵医大の福田国彦教授を御願ひしてあります。会員の皆様を裨益する特集になるものと期待しております。

山陽新聞2001年10月6日朝刊に本研究会の記事が紹介されておりました。改めまして岡山大学放射線科・平木教授以下教室員の方々に心より敬意を表します。

以下原文掲載～『画像診断の研究成果発表 岡山で学会』全国の放射線科医ら250人が最新の画像診断技術について学ぶ「第30回断層映像研究会」(大会長・平木祥夫岡山大学医学部放射線科教授)が5日、岡山市古京町の三光荘で2日間の日程で始まった。今回のテーマは、エックス線で体内をきめ細かく映し出すマルチスライスCT(コンピューター断層撮影装置)と、強い磁場を利用したMRI(磁気共鳴診断装置)の比較検討。両装置の特色を生かした診断法についての報告が相次いだ。岡山大学医学部放射線科の清哲朗助手は、マルチスライスCTによる頭部の診断について発表。血管障害、腫瘍(しゅよう)、骨折など複雑な部位の診断の有効性を、実際の断層映像を示しながら紹介した。最終日の6日も同じテーマでシンポジウムなどが開かれる。～

会員の皆様には、良い新年をお迎え下さるよう祈念しております。

蔦紅葉 昇竜のごと 松の幹 (雪月花)

町田喜久雄、断層映像研究会雑誌編集委員長

断層映像研究会雑誌

第28巻第4号 (断層撮影法研究会雑誌より通巻)

2001年12月1日 印刷

2001年12月31日 発行

発行人 田中良明

編集委員長 町田喜久雄

発行所 断層映像研究会

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部放射線医学教室内

定 価 2,000円